

重点施策計画の進行管理について（案）

1. 趣旨

現行の中期計画である「神戸 2010 ビジョン」での進行管理による経験や成果をふまえ、重点施策計画においても、毎年度、PDCA サイクルによる進行管理を行う。

これにより、目標達成に向けて計画を着実に実行するとともに、その進捗等について検証・評価の上、変化する社会経済情勢も鑑みながら、必要に応じて予算への反映や計画の見直しを行うなど、次なる改善・改革へつなげていく。

その中で、市民・事業者等は、計画の進捗に自ら関心を持ち、改善に向けた意見を表明するなど、自ら計画の実践者として積極的に参画することが望まれる。行政は、PDCA サイクルを通じて行政改革や人材育成を進めることで、より効率的で質の高い市政運営を実現していく。

2. 特徴

① 事業ごとの評価

各重点施策を構成する事業（約 180 事業）ごとに、設定された目標等に照らし、事業が予定通りに進捗しているかどうか、事業を進める上でどのような点が課題になっているか等を明らかにする。

② 施策評価

事業ごとの進捗状況に対する評価に基づき、重点施策（48 施策）ごとに施策総合的な評価を行う。

③ 外部委員会の設置

上記①・②の評価にあたっては、先ず行政において内部評価を行ったうえで、その内部評価に対して外部から検証・助言をいただくため、外部委員会を設置する。

④ 検証・評価結果の活用

検証・評価は各年度の上期に行い、その結果を次年度の予算編成等に活用する。

⑤ 計画の更新

検証・評価結果を踏まえ、また社会経済情勢の変化等を鑑みながら、本計画について柔軟かつ機動的に見直しを行い、外部委員会の助言を受けつつ必要な更新を行う。